

耐越水堤防について

- ・意見書本文の記述
- ・耐越水堤防はあてにしてはいけない
- ・越水対策として効果をあてにすることはできないが試行事例をもとに対策工法の費用と期間を仮に試算
- ・河川整備計画原案において実施する堤防強化

意見書本文の記述

意見書本文の記述

- ・堤防のHWL以上の強化および耐越水堤防への強化対策と流域対応等他の対策との組み合わせについて、事業費を明示した上で優先度の検討を行い、破堤による壊滅的な被害の回避・軽減を流域全体で最優先に取り組むための具体的な計画を示すことを求める

耐越水堤防はあてにしていけない

越水対策としての堤防強化は、その効果をあてにしていけない

①構造や効果等の技術的説明ができていない

②一箇所破堤しても広域に甚大な被害
確実な効果が見込める対策しか採用不可

③施工事例をもとに試算すると対策工法の費用は莫大
加えて支川処理30河川、樋門対策101箇所などが必要

④遊水地には越流堤があるが、壊れた例あり
(万が一壊れても周囲堤で浸水が拡大しない)

効果が不明なものに

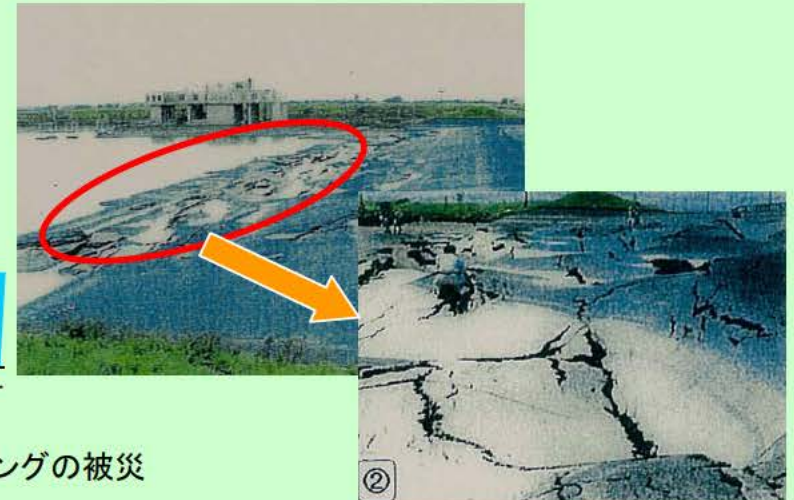
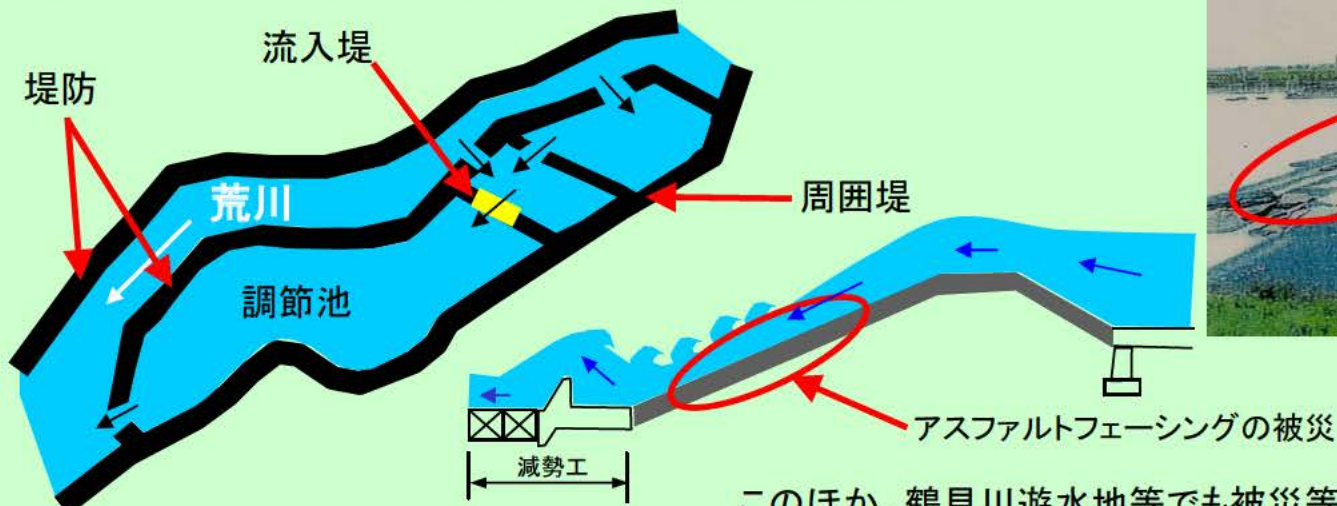
- ・人々の生命・財産を託すことはできない
- ・多額の費用はかけられない

そうしたことから世界的にも歴史的にも例がない

確実な対策を最優先で実施すべき

- ・川の中の洪水を安全に流す
(流す:掘削・引堤、貯める:遊水地・ダム)
- ・堤防を強化する
 - ・計画高水位以下の流水(天端まで到達)に安全
 - ・堤防が少しでも丈夫になるよう工夫
(堤防天端の舗装、裏法対策等)

【流入堤被災事例】平成11年8月荒川第一調節池



越水対策として効果をあてにすることはできないが試行事例をもとに 対策工法の費用と期間を仮に試算した場合

越水対策としての堤防強化は効果が不明であり、あてにできないことから、確実に効果が期待できる河道掘削・ダム建設の代替案にはなりえないが、あえて試行事例を参考にして費用と期間を仮に試算。

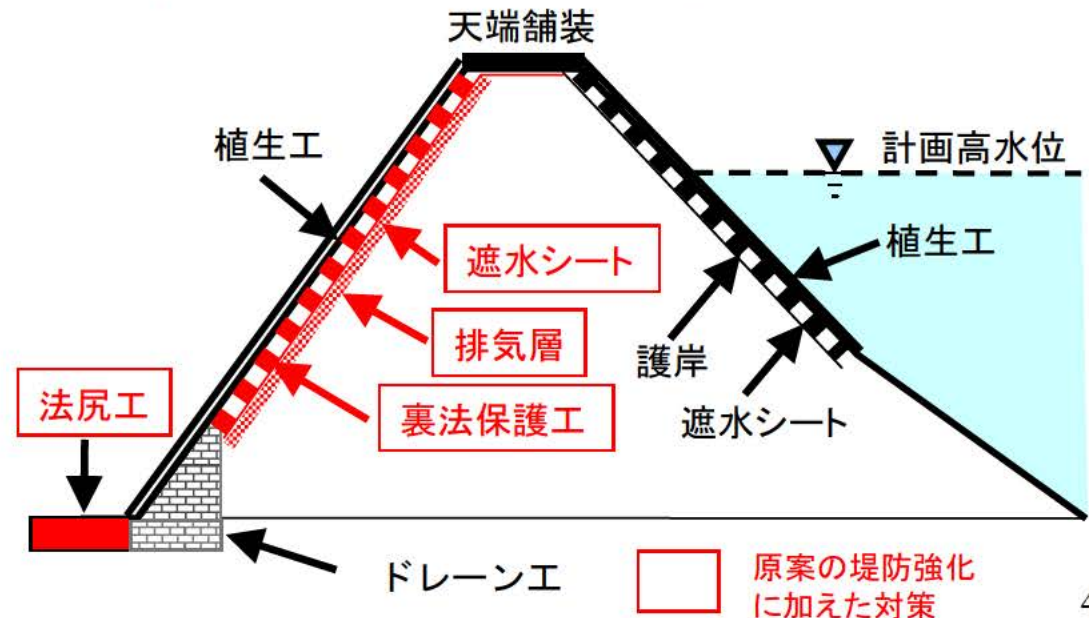
	原案の堤防強化 計画高水位以下の流水の通常の作用(水は天端まで達する)に対し安全を確保、越水にも資するもの			越水対策として効果をあてにすることはできないが試行事例を基に対策工法の費用と期間を仮に試算した場合		
	残区間(km)	費用(億円)	期間(年)	区間(km)	費用(億円)	期間(年)
淀川	20.2	126	約5	69	約850~1,450	約35~80
宇治川	3.0	25	約10	25	約300~550	約45~115
桂川	5.1	24	約30	27	約350~600	
木津川	38.8	546	約30	53	約600~1,050	

【試算にあたっての注意事項】

- ・試行事例をもとにした工事費を用いて技術的な課題は無視して試算
- ・堤防の法尻の地盤を洗掘し結果として堤防が崩れてしまうこと、大きなエネルギーを持った水流が近隣家屋等を壊してしまうことを防ぐための法尻工として実験的に求められた最低限必要な幅1mを見込む
- ・この他、支川の合流点処理や樋門・ポンプ等の構造物改築が必要となるが、算定していない。

参考資料あり

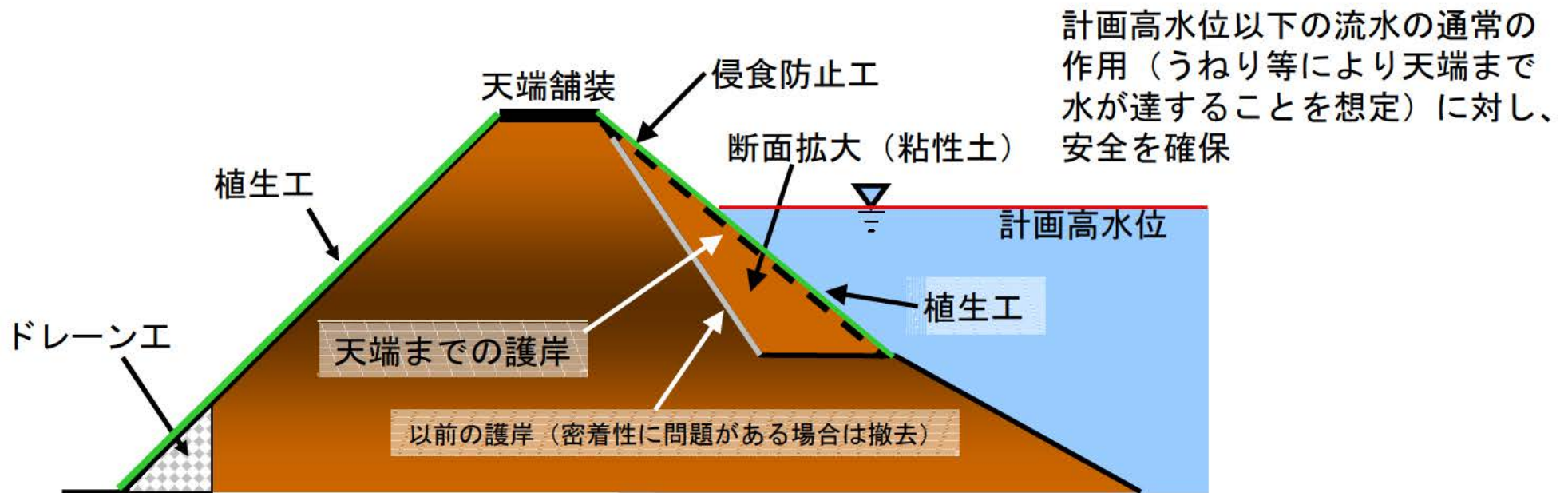
費用試算のために試行事例を参考に設定した対策工法



河川整備計画原案において実施する堤防強化

安全確保のために淀川で行う粘り強い堤防への強化

- ・ 堤防強化は極めて大切なことであり、うねり等により天端まで水が達することを前提とした堤防強化を緊急的に実施
- ・ 確実な効果は期待できないが、合理性がある範囲で積極的に越水に資する対策を実施



淀川水系の標準的な堤防強化

淀川本川 約32km 約190億円(実施済を含む) 今後概ね5年間で完成

支川緊急対策区間 約22km 約170億円 (今後概ね10年間で完成)

支川(上記以外) 約43km 約470億円 (今後30年間で完成)